

文化情報誌

Passion

・ パッション

特集「ひととみち」



輝くひと 自然豊かな環境で

社会福祉法人ひよこ会理事 佐野明子

FLASH 童話集『ドアのノブさん』を書く

童話作家 大久保雨咲

誌名の「パッション」は燃えるような「情熱」の意味です。

元気な四日市が好き!!
一般社団法人
四日市市文化協会



2017
march 60

大入道をどうやって継承していくか

— 祭りは見るだけではなく、参加してこそ

四日市大学 学長 岩崎 恭典



2016年9月1日に、四日市大学第三代学長に就任しました、岩崎恭典です。

私は、2001年から四日市に住み始めました。地方自治を専門とするものとして、日本の真ん中にある三重県の地域に刻まれた歴史・風土を、堪能してきました。そして、それらを学生の教育に活かせないかと常々考えていました。

2007年、四日市市当局の仲介で、三重県指定民俗文化財・大入道山車保存会の皆さんにはじめて、お話をお伺いしたとき、町内に子どもはほとんどおらず、山車が出せなくなるのではないかと危惧されておられ、人形師の方々が山車も引っ張るという状況でした。そこで、からくりの操作・組み立ての技術伝承は、ぜひ地元で、我々の学生は、引手として存続のお手伝いをしますと始まった講義が「祭りとまちづくり」という講義です。

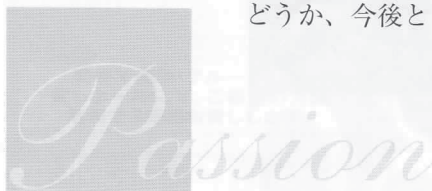
この講義では、まず、祭りがまちづくりや地方創生の核となることを芸能史研究家の前田憲司先生に、その後、岩戸山保存会の水谷さん、大入道保存会の家城さんにお話しいただいたのち、例年7月に、大入道の組立作業のお手伝いと見学に参加します。また、8月の大四日市祭りでは、大入道山車の引手のみならず、岩戸山山車の引手や東日野大念仏の担い手としても学生が参加します。

学生は卒業すると、多くが四日市を離れてしまいます。けれども、毎年のレポートで、「祭りは見物するものではなく、参加することなんです」という感想を見ると、おそらく、学生は、祭りの裏方としての現場の苦勞を知ることで、どこにいても、将来、家庭を持っても、それぞれの地域での祭りに主体的に参加してくれるであろうことを期待しています。そして、いずれ四日市に戻って来てくれることも期待したいところです。

地域住民だけではなく、より多くの市民が何らかの形で祭りに参加することのできる体制を作っていくことがこれからの講義の目標です。

こんな地域で学ぶ講義をたくさん作っていきたいと考えています。

どうか、今後とも、ご協力いただきますよう宜しくお願いします。





表紙写真 海蔵川の夜桜 撮影：水野圭次郎

街があって人がいます。そして道があります。四日市は東海道五十三次の43番目宿場町として伝統ある文化を紡ぎながら、発展してきました。今回の特集では、ひととみちの関わりを切り口としました。

四日市市文化協会に関するお問い合わせや、入会のお申し込みは、下記へご連絡ください。

〒510-0057 四日市市昌栄町 21-10
 TEL・FAX 059-351-3729
 Eメール ybk-jimu@m2.cty-net.ne.jp
 開局時間 月曜日から金曜日までの
 13時～17時(祝祭日は除く)

ホームページ

四日市市文化協会 🔍 検索



Passion

60 2017
march

巻頭によせて

大入道をどうやって継承していくか

— 祭りは見るだけではなく、参加してこそ

四日市大学 学長 岩崎 恭典

特集 ひととみち

東海道 日永道中膝電車 四日市市立博物館 学芸員 廣瀬 毅 …… 2

街道並木の歴史 名阪造園 代表取締役 田中 清平 …… 4

Sparkling Personality 輝くひと

自然豊かな環境で — 社会福祉法人ひよこ会 理事 佐野 明子さん …… 6

FLASH 童話集『ドアのノブさん』を書く うさぎ 大久保 雨咲さん …… 8

四日市地域 まちかど博物館めぐり
 川原の一本松 …… 9

訪問レポート
 四日市市三浜文化会館
 カルチャー三浜訪問記 …… 10

四日市市立図書館のこと …… 12

＜… パッションひろば …＞

「パッションひろば」では、文化協会の活動報告を中心に、協会主催催事のレポートなどをご紹介します。

文芸ひろば 現代詩 「美術館」	館 奈見子(解説 黒田加恵) …… 13
第十五回四日市短詩型文学祭受賞者一覧	…… 14
平成28年度 四日市市文化功労者・四日市市民文化奨励賞	…… 15
総合美術展を終えて	太田 進 …… 16
四日市市文化協会後援イベントのご案内	…… 18
第59号の訂正とお詫び	…… 19
短信/リレーエッセイ/理事長のつぶやき/編集後記	…… 20

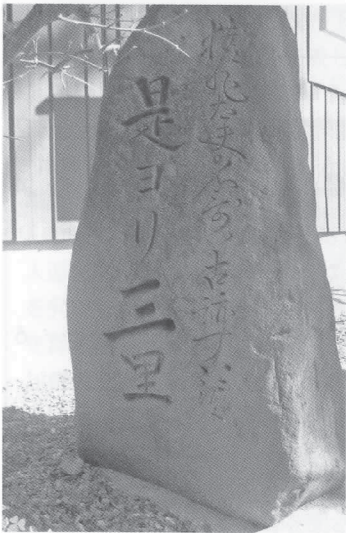
東海道 日永道中 膝電車

四日市市立博物館
学芸員 廣瀬 毅



江戸時代、江戸と京都を結んだ東海道は、わが国で最も重要な街道でした。街道の大部分が海岸部に近い平野を通る東海道は、同様に江戸と京都を結んだ中山道に比べて歩きやすく、多くの旅人の往来によって沿道の村や町も賑わっていました。

江戸から九十九里余り（約三百九十キロメートル）の所にある四日市宿。そこからさらに京へ向かって南に進み、鹿化川を越え、と日永に入ります。日永には、永餅、団扇、足袋、薬、追分饅頭などの名物、名産があり



水沢道道標

ました。

東海道伝馬制度の廃止から今年で百四十五年、現在の日永の東海道で感じられる江戸時代の面影を紹介します。

四日市あすなろう鉄道日永駅の南に、日永不動で知られる大聖院があります。その門前の細道は、江戸時代には水沢道と呼ばれていました。その水沢道と東海道が交わる所に、自然石に彫られた道標があります。東海道に背を向けている「猿丸太夫名歌古跡すい沢へ是ヨリ三里」と刻まれている面が本来の表で、道標の寄進者の句を入れた「水沢は藍より出て紅葉哉 大坂 羽積み」は裏面です。「羽積み」は河村羽積（？）一八一二、江戸時代中（後期）で、地歌の作詞や、古銭の研究をした人ですが、百人一首の猿丸太夫の歌、「奥山に 紅葉踏みわけ 鳴く鹿の 声きく時ぞ 秋は悲しき」の舞台が水沢の楓谷であるこ

とを、東海道の旅人に知らせるために建てた
 ものです。河村羽積がどのような根拠で、水
 沢の楓谷を猿丸太夫の歌の舞台としたのか
 は、残念ながらわかっていません。

南日永駅そばの日永小学校、その先の西唱
 寺を過ぎると一里塚の跡を示す標柱が家と家
 の間に挟まるように建っています。この一里
 塚は江戸からちよど百里目にあたります。
 京まではあと二十五里余りの旅というわけ
 です。旧海軍道路（泊山通り）の手前には東海
 道にあった松並木の名残を伝える松が一本そ
 びえています。地元の古老の話では、戦前は
 この辺りには松並木が鬱蒼と茂り、昼でも薄
 気味悪く、夜は松風のザーザーという音がし
 てさらに怖かったそうです。

追分駅の東に、東海道と参宮道との分岐点
 「日永の追分」があります。ここに、江戸時
 代初期の明暦二（一六五六）年に、四日市の僧、
 専心によって道標が建てられました。この時
 期に道標を建てたという事は、この分岐が
 わかりづらく、旅人がよく道を間違えたから
 だろうと思います。東海道には整備された松
 並木があり、誰に道を教わることなく旅をす
 ることができます。しかし、村や町に入った
 途端、松並木はなくなり、道は何本も交わり、
 真っ直ぐ進むのか、どの角で曲がるのかわか
 らず、道に迷うこととなります。道標はこ



日永の追分



名残の松



日永の一里塚



明暦の道標

うした場所に建てられたのです。

安永三（一七七四）年には神宮遙拜鳥居が
 建てられました（昨年十月に四十三年ぶりの
 建て替えがおこなわれました）。そして、幕
 末の嘉永二（一八四九）年には、桑名魚町の
 尾張屋文助によって追分に新たな道標が建て
 られます。明暦の道標と違って大きさも、彫
 られた文字もはっきりと視認することができ
 ます。（この道標ができたことで、明暦の道
 標は所在を転々とし、現在では南日永駅そば
 の日永神社境内に、東海道現存最古の道標と
 して残されています。）こうして、追分はど
 こから見ても参宮道の入口であることがわか
 り、旅人にとってのランドマークになったの
 です。そして、東海道を描いた浮世絵にもた
 びたび登場したことで、四日市のランドマー
 クにもなっていたのです。

百聞は一見に如かず。ぜひ東海道の日永界
 限を自分の足で歩いてみてください。歩く速
 さでしか気づかないものが、きつと見つか
 ると思います。歩くのは苦手という方には、東
 海道に並走する四日市あすなろう鉄道を早馬
 の代わりにすることもできます。

※東海道中膝栗毛の膝栗毛とは、栗毛馬に代わっ
 て自分の足で歩く旅を言います。このタイトル
 は電車の代わりに自分の足で歩くという意味で
 膝電車としてみました。

街道並木の歴史

名阪造園 代表取締役

田中清平



新道通りのケヤキ（本来の樹形ではないが、幅員に合わせた縮小樹形）

東海道は江戸日本橋から京都三条大橋（約500km）までを結ぶ街道であり、その中で三重県内の東海道は伊勢の桑名から四日市、石薬師、亀山、関、庄野、坂下宿を通り鈴鹿峠へと向かうおよそ45kmの道のりです。途中、「日水の追分」でいわゆる、おかげ参りと言われる伊勢神宮を目指す伊勢街道と分かれています。かつて往来では旅人が大勢行き交っていた姿が目に見えかぶようです。

ところで、その街道には古来から並木が植えられてきました。人々の旅の安全を守るといふ観点からもその町々の風情をかもしたという意味合いでも地域文化の形成に役割を果たしてきたといえます。街道並木と呼ばれてきた街路樹について道と人を交えてお話ししたいと思います。

街路樹のあゆみは今から1000年以上も前の奈良時代から始まります。そもそも旅人の休息の場として、また木の実を食料とするために（飢えた旅人に対応する為）街道の両側に樹木が植えられました。



旧東海道の道しるべ

奈良時代〜平安時代は『第一期の並木の主流は果樹中心の時代』でした。室町時代の中期には並木の保護令が出され、旅人に夏の木陰を提供し果実で喉を潤すため路傍の樹木の伐採を禁じました。また戦国時代末頃には織田信長が東海道にサクラ・マツ・ヤナギを植え、各大名もそれぞれの領内の街道に諸木を植えて街道の整備を行いました。これが『第二期のサクラ・ヤナギ時代』です。江戸時代に入ると徳川家康は幕府に「道中奉行」を置き、徳川秀忠が五街道（東海道・中山道・甲州道中・日光道中・奥州道中）を始めとする諸街道を整備するために、マツ・スギなどの並木の植栽を命じました。この時代は『第三期のマツ・スギ並木の時代』です。同時に日本橋を起点に江戸から1里ごとに5間四方の「一里塚」を設けエノキを植栽しました。以降、幕府は並木の保護策をとり補植・雑木の刈払い・根際両側の歩行禁止を命じ、木陰とした場所の年貢免除等の措置を講じました。また江戸時代の中頃には、五街道の並木補植が不良であることから「どこの誰が管轄しているのか、わかるような札を立てる」ことを命じています。いかに街道の並木が旅人にとって大切なものを物語っているようです。意外にも昔のほうが、今の時代より行き交う人々に対しての配慮が深いような気さえしてきます。このように江戸時代にはきめの細かい取決めと管理・運営の基礎が確立されました。



美しい街路樹の風景(東京・桜坂)

そして、近代並木の時代に入っていきます。明治・大正時代は『第四期の落葉広葉樹時代』となり、明治時代には本格的街路樹計画が立てられました。樹種選定がなされ、スズカケノキ・イチヨウ・ユリノキ・アオギリ・トチノキ・トウカエデ・エンジュ・ミズキ・トネリコ・アカメガシワ(以上10種)が基本となりました。大正時代に入ると、東京の主要道路のほとんどに街路樹が見られるようになります。しかし、東京では市街地の発展とともに「架空線の増加」と「強風による倒木」の防止のための「強剪定による樹形の乱れ」が問題となり、街路樹の「養生と管理」は「専門の公園技術者」の手に移されていきます。全

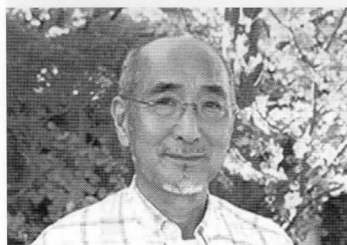
く今と同じような状況に陥り、公園専門官の裁量に委ねられることになっていきます。その後、関東大震災・第二次世界大戦と不幸な時代を迎え、せっかく名古屋―大阪方面まで都市緑化のための街路樹植栽が進められ定着し始めましたが、被災した街路樹の大半が焼失してしまいました。

終戦から5〜6年を経た頃になると混乱状態も治まり、緑に飢えた国民から自発的な「緑化運動」が起こり、街路樹の復活が図られるようになります。その後、「日本列島改造論」に象徴される高度成長時代に工場排煙や車の排気ガスなどの公害問題が顕著になり、公害に強いマテバシイ・ヤマモモ・タブなどの「常緑広葉樹類」が多く用いられるようになります。そして『第五期の常緑広葉樹混生の時代』になっていきます。そんな中で「美しい街路樹」の樹形を維持するための管理体制が整えられていき、道路幅員を十分に確保できない日本の道路事情に合わせて日本古来の「伝統的剪定技術」が力を発揮してコンパクトな樹形につくりあげて街の緑を充実した景觀として表現するに至っています。

さて、これからの『第六期の街路樹自立時代』ですが、日本が文化都市として世界に誇れる風格ある街路景観創出のための具体的な課題は山積みです。環境の時代といわれるこれから求められることは、都市の中で自然と人間が共生していくという在り方です。山か

ら海を緑で繋ぎ、昆虫や小鳥の移動をスムーズにし、生物多様性を維持するための緑のコリドーとして道と街路樹を活用し、都市の中へ自然を導いていくことです。そのことにより、都市の中の二酸化炭素を削減し、温暖化した町を冷却していく、緑あふれる街路作りが必要とされる時代ではないでしょうか。並木道(豊かな街路樹景観)のある街並みから魅力ある都市環境が形成され、その土地の文化性の形成に大きな役割を果たしていきます。ただ通り過ぎてゆくだけの道ではなく、道ゆく人々がちよつとした変化を感じ取り、潤いを感じ和らいだ気持ちになれる場所にもなっていく。おかげ参りの道筋ではないですが、その場所の持つ歴史性や文化性も加味されながら、道を通じて町が膨らんでゆく。そういう活気と潤いのある本当の意味での美しい街を育んでいく必要があるのではないのでしょうか。

参考文献 街路樹 社団法人日本造園建設業協会監修 山本紀久著



略歴

大学卒業後、京都 井上卓之氏のもとで庭づくりの伝統技法と設計を行う上でのモノづくりの本質を学ぶ。1981年名阪造園社長就任。日本造園建設業協会三重県支部副支部長など歴任。現在(2017年1月時点)日本造園建設業協会 植栽基盤診断士講師、三重県造園建設業協会会長。



Sparkling Personality 輝くひと

自然豊かな環境で

社会福祉法人ひよこ会理事・ひよこ保育園前園長

佐野明子さん



ピアノに合わせて遊ぶ園児たちと佐野さん

とで、人としての基礎となるものを育てる。家庭と連絡を密に取れる。家族も職員も共に主人公となり、一緒につくること、安心して子どもをはぐくめる。これらのことを常に思いながら、佐野さんは園児たちを見つめてきた。

二人の女性に導かれて

ひよこ保育園を訪ねると、緑豊かな園庭を一羽のニワトリが歩いている。ニワトリがいる！こう思っておそろおそろ近づくと、そばにあった飼育小屋の中から、園児たちが「そのニワトリ、まだ子どもなんさ」と、地面をせっせと掃きながら、私に教えてくれた。驚いた。ニワトリが放たれたこの環境になじんでいるこの園児たちに。

「自然豊かな環境で、本物の体験をさせてあげたい」と、前園長の佐野明子さんは語る。

決められた時間に、ただ預かるだけの保育ではなく、自然に触れるこ

学生時代、ゼミの先生が自分の子どもを乳児共同保育所ひよこにあずけていたのが縁となり、保育の道に入った佐野さん。以来、定年となった二〇一六年三月まで園長を務めてきた。母体となる「社会福祉法人ひよこ会」の理事でもある。初代理事長の吉田うたさんは、戦後、働く女性とその子どもの幸せを守るために、四日市で活動を続けてきた女性だ。「見返りを求めない無償の人でね。電車に乗っていても、子ども連れのお母さんを見つけると、話しかけるような宣伝マンでしたよ。今、保育園を認可してもらうための署名を集めているんだけどね、とね」吉田うたさんについて、佐野さんはこう話す。吉田うたさんと、学生時代のゼミの先生。この二人から影響を受け



「ことり保育園」新設に向けた横断幕

て、佐野さんは「ひよこ」と共に歩いてきた。

「ひよこ」の歴史

ひよこ保育園が、現在の園舎を構えるまでには、働く女性を支え続けてきた歴史があった。一九六八年に小古曾町で「乳児共同保育所ひよこ」として開所し、西町、日永へと移転。それまでは無認可だったのが、このときに署名活動などにより市に認可され「ひよこ保育園」として東日野

に移る。その後、第二園となる「こっこ保育園」が建ち、さらに今年、第三園として「ことり保育園」が西日野に新設される予定だ。

産後43日めの子どもから入園できる共同保育所として、開所していた時からの保育士であった佐野さん。だから、園児が少なくて廃園の危機となったときも、希望者が多すぎて入園が困難だった時代も、無認可だったのが認可された感慨も、子育て支援センターとしての役割を持つようになった経緯も、すべて見てきた。

「園児たちと散歩をしていて、通りすがりの人に、冷たい目で見られたこともありましたよ。まだこんなに小さい子なのに保育園に預けられてかわいそうにと。だからこそ元気な子に育ってもらいたいと思って、今日も寒い中散歩に行ってきました」と家庭への連絡ノートに書いたことを思い出した。

話しているうちにも、思い出は次々によみがえってくる。

園児たちへ

事務所の棚の上には、数枚の写真が飾られていた。保育士たちによる

劇を写した写真の数々だ。さるかに合戦のウスに扮する佐野さんと、その周囲で肩をくむ先生たち。園児たちよりも楽しんでるんだらうなと思わせるものばかりで、見ていると、こっちまで笑顔になった。「ひよこ」「こっこ」「ことり」が求められ、「ひよこなら佐野先生」と慕われる魅力が、ここからにもじみ出ていた。

こんな人がそばにいれば、園児たちは、大人になるって楽しいんだらうなあ」と夢見るに違いない。大人になるといふことに、希望と夢を持つことができる。佐野明子さんは、まさにそんな人であった。

(レポート 伊藤美香)



園庭のそばの「むじゃむじゃの森」

「ひよこ」のあゆみ

- 1968年 「乳児共同保育所ひよこ」を開所
四日市ではじめての産休明け保育を実施
- 1989年 法人認可 「ひよこ保育園」と改名
- 1996年 子育て支援事業をはじめる
- 2007年 第2園「こっこ保育園」を東日野に開園
- 2017年 第3園「ことり保育園」を西日野に開園予定

お問合せ先：社会福祉法人ひよこ会

TEL:059-322-1829 / FAX:059-322-9829

【ひよこ保育園】四日市市東日野町城山 1611-16

【こっこ保育園】四日市市東日野町道之上 986-1



佐野 明子
(さの あきこ)

社会福祉法人ひよこ会理事・ひよこ保育園前園長。H25年厚生労働大臣賞受賞。退職後の現在も、ことり保育園新設などに向けて勤務。『子育て・保育—私のひとこと』(三重県保育団体連絡会編)、『たからもの』(ひよこ保育園刊)に寄稿。

FLASH

童話集

『ドアのノブさん』 を書く

童話作家

うさぎ
大久保雨咲さん



黄色い背景の表紙でニシワキタダシ氏の絵も楽しい

とのない世界の中に、私にもあり得る心の動きを感じた。悲しいこともあったけれど、ちよいちよい笑った。短編だが、その物が長く生きてきたさまを想像できた。

ふと思ふことがある。

雨咲さんにまだ書かれていない日常の物たちが、「四日市公害と環境未来館」の前に列をなして、我先に書いてもらおうと、順番を競っているのかもしれない。私には決して見えないが、雨咲さんには見つけられる。こうして選ばれた物たちが、大喜びでポーズをとるのである。こんな景色が思いうかぶ。

(レポート 伊藤美香)

昨年夏に刊行された『ドアのノブさん』。日常によく見かける「物」たちが主人公の五編の童話集である。本のタイトルにもなっている「ドアのノブさん」は、アパートのドアの取っ手だ。ノブさんのいる三〇二号室に住んでいる、大好きな山下さん一家が引越すところから、物語ははじまる。自分もいっしょに行けると思っていたのにノブさんは置いていかれ、あつことこが、新しく田中さん一家を迎えなければならなくなった。動揺するノブさんと、周りについている冷静なネジたちとのやりとりを引きこまれ、これを読まわす私は、すべてのドアノブにしか見ていなかったものが、読んだあ

とは「ノブさん」にしか思えなくなった。読み手の意識をガラリと変える。作者、大久保雨咲さんの目には、世界はどんなふうに見えているんだろうと思った。

作者・大久保雨咲

作者は、心にひっかかっていた言葉をもとに物語を書きはじめることが多いという。鳥が好きで、ちっちゃいものが好き。普段は「四日市公害と環境未来館」で働いている。これが作者、大久保雨咲さん。

子どもの頃から、やっぱり独特の着眼点があったようだ。例えば「敵ごっこ」を思いついて遊ぶことが

あったという。畑の畝になろう、と思いつき、土に寝ころんで、空を眺めるとい遊びだそう。ルールもある。虫が来ても、アツとか言っちゃダメで、それは畝として失格らしい。ちゃんと畝になりきらなければならぬのだそう。なんておもしろい。子どもの頃から、遊びの中にすでに、隙のない物語を持ち込んでいた。

童話作家の視点

『ドアのノブさん』は、童話だからこそ、物語により奥深くまでもぐりこむことができたのだと思う。優しい言葉で、容赦ない現実にかくれている希望を見せてくれた。見たこ

プロフィール

大久保雨咲 (おおくぼ・うさぎ)
三重県生まれ。子どもの本専門店メリーゴーランド主宰の「童話塾」で創作を学ぶ。第21回「ニッサン童話と絵本のグランプリ」優秀賞を受賞。第9回「飛ぶ教室」作品募集童話部門(光村図書出版主催)で優秀作。2011年に『ずっとまわっていると』(そうえん社)でデビュー。

牛乳やジュースなど多くの飲料が、近年はペットボトルや紙パック容器に変わってしまいましたが、それでも今なお暮らしに身近なビン容器。普段何気なく使っているビンも、過去の物と比べれば色々な違いが見て取れます。「200ml入りの牛乳ビンは、戦前は蓋もガラス製だったんです。醤油差しのように蓋にネジが切ってあります。戦後まもなくの牛乳瓶は、まるで薬品用の遮光瓶のように濃い色。これは、透明ガラスをつくる材料が不足していたから」

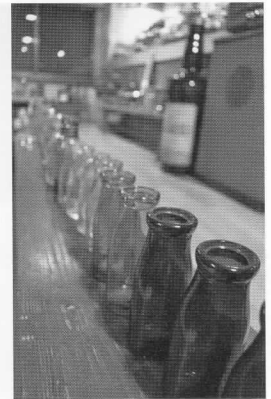
少しずつ異なるビンを一つ一



四日市地域 まちかど博物館めぐり

川原の一本松

レトロなガラス瓶がいっぱい！



つ解説してくれるのが、『川原の一本松』館長の水谷彰男さん（61歳）。この道20年の「懐かしのガラス瓶」コレクターです。子どもの頃に飲んでいたジュース瓶にある時偶然再会し、以来、骨董市を歩き回ってガラス瓶を蒐集してきました。平成23年には、両親が暮らしていた母屋2階を改装し、『まちかど博物館』としてオープン。展示点数は「もう幾つあるのか分からない」ほど膨大で、「家族は床が抜けやしないか心配している（苦笑）」。どのガラスも光に透けて幻想的に輝いていますが、よく見ると「ヤクルト」「味の素」「キンカン」など、なじみ深い銘柄ばかり。工芸品ではなく、庶民の暮らしに密着したガラスビンにこだわって集めてきたそう。

コレクションは、ブログでも日々公開しています。

「何だか分からないまま購入した

ビンも、ネットだと、それが何か詳しく教えて貰えることも。『珍しいビンをネットで見た』と遠くから見学に来る人もいます。東京の教授や、大手化粧品メーカーの方など。オーストラリアからメールが来たこともありました」

小指の先ほどの小さなビンから、腰の高さまである特大ビン、吹きガラスで作った一斗瓶まで、ガラス容器の変遷を一望でき、奥深さを垣間見ることができる『川原の一本松』。館長の水谷さんは、現在も会社勤めをしているので、来館は平日の夜か土日祝日に予約を入れて。

（レポート 中村智恵子）



四日市市大矢知町 425

電話 090-5033-2388 予約が必要

ブログは「川原の一本松」で検索を

目を引く建物

23号線を午起から南に向かい、高架を下りた海山道交差点の左手前に、目を引く建物が建っている。四日市市立三浜小学校だった建物だ。その学校が閉校になったと知ったのは2年前だった。あの素敵な建物は今後どうなるのか？などという私の心配をよそに、かつての校舎はその美しさを保ったまま、改装を経て昨年11月に四日市市三浜文化会館に生まれ変わった。早速、市の文化振興課の中野氏にご案内を願い、興味津々で訪問した。

趣向を凝らした入り口天井を見ながら中へ入ると、扇型の交流スペースには県産材の丸いテーブルと椅子が愛らしく並んでいた。ここにかつて集った子ども達の賑やかな声が聞こえてくるようで、時が目の前を流れていくような錯覚にとらわれた。

カルチュラル三浜に至る道

中野氏は「三浜小学校閉校記念誌」を広げながら説明した。

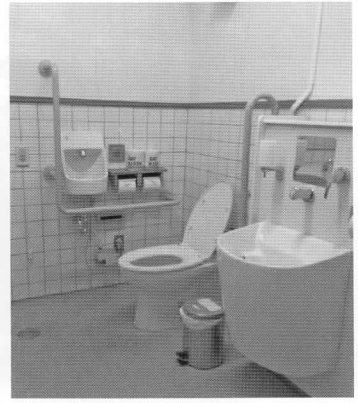
訪問レポート

四日市市三浜文化会館 カルチュラル三浜 訪問記

(カルチュラルとは、フランス語で文化、教養のこと)

○四日市市三浜文化会館の前身である三浜小学校は、高度成長期背景に、昭和31年「第2塩浜小学校」として設立されたこと
○その年の6月、当時の学区であった塩浜、浜田、西浜の地名に付いている3つの浜を取り「三浜」という校名に変更されたこと
○このカルチュラル三浜に生まれ変わった校舎は、平成2年に建て替えられたものであること等
三浜小学校57年の歴史の中では、最大1,169名の在校生を抱えた時期もあったのだという。





様々な人が使いやすいように配慮された設備

幸運なことに、三浜小学校を建て替えた時期は、行政全体を文化的視点で見直す「行政の文化化」が進められていた時期と重なった。象徴的な時計台や、内部にふ

んだんに配置されたオープンスペースは、当時としては相当先駆的で、全国からの視察も多かったという。しかし、その後の児童減少に伴い、三浜小学校は平成26年3月末に閉校した。

一つの役目を終えた三浜小学校ではあったが、その良さを生かしたりリノベーションが行われ、昨年11月に四日市市三浜文化会館として再生を果たす。市が愛称を公募し、203件の中から「カルチュラル三浜」が採用された。

施設内には、遮音壁を備えたりハーサル室や練習室、会議室、展

示室、創作スペース、多目的ホール、陶芸室、交流スペース、キッズスペースなどがあり、稼働率の高い四日市市文化会館の練習室などを補完する役目を持つ文化の拠点となった。更に高い文化には不可欠な人権意識にふさわしく、エレベーターやスロープ、多目的トイレ、男性でも利用できる授乳スペースなどがあり、多様な人への配慮が随所になされた建物となっている。

風格のある都市

市の担当者は語った。

「産業の地に文化活動の拠点が生まれれば、人々の心に豊かさをもたらされ、四日市の文化力はきっと上がっていくでしょう。子ども



至る所に飾られている子ども達の作品

たちを育ててきた元小学校だからこそできる取り組みを通して子どもと文化をつなぎ、文化不毛の地などと言われないような風格のある都市をここから目指したいと思っています」

校内にはあちこちに以前の姿を留める工夫が残されていた。卒業生が自分の子どもと共にここを訪れ、音楽やダンス、絵画などの文化的な活動に興じる日はすぐやってくるだろう。最初の卒業生は既に72歳だ。今、目の前の多目的ホール（旧体育館）で社交ダンスを楽しむ人々のように、ここで

余暇活動に興じる人もすぐに増えるだろう。

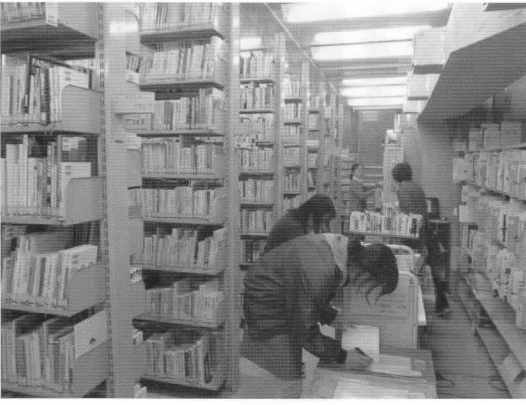
行政の仕事と言うのは、囲碁の布石のようだと思った。これは未来への挑戦なのだ。四日市を象徴するコンビナートを窓から眺めながら、今後、四日市の文化力がどれほど上がっていくのか、ぜひ長生きして見てみたいと思った。これを拠点に、心豊かな子ども達が四日市全域に広がっていくことを心から願っている。

（レポート 伊藤順子）



1階交流スペース

本を借りようと検索すると、蔵書場所に「書庫」と書かれていることがよくある。出力されたこの紙を司書に見せると、本を持ってきてくれる。書庫とは、どんなふうになっているのだろうか。ずっと気になっていたのだが、今回初めて、入らせていただくことができた。見あげるほど背の高い本棚に、本がめいっぱい並んでいる。こんな部屋が三階分。「三層」と呼ぶのらしい。わかりやすく分類されていたので、私はつい、好きな児童書の棚の前で長いこと立ち止まってしまった。ふり返ると、



四日市市立図書館のこと

職員の方が心配そうに私を見ていた。案内してもらった場所は、まだ他にあったようだ。図書館は、せわしなく見学するところではなく、ゆっくりしたい場所だと、あらためて思った。

図書館の今

四日市市立図書館は、明治四十一年、当時の福井銑吉市長が「図書館設立に関する書」を市議会に提出したことから始まった。その後、現在の中央小学校敷地内に付設、諏訪公園内に新設、昭

和四十八年に現在の場所に移設された。それから四十四年。

現在では、三〇人ほどの職員が働く。この本はありませんかと利用者に見られると、その人の求める本を探す。本棚のこと、利用者のことを思いながら、新刊を選ぶ。移動図書館用の自動車に乗って、離れたところに暮らす人に本を届けるなど、本と人をつなぐ日々を過ごしている。職員さんたちの頭の中は、きつと利用者のことではないだろうかと思う。



新しい図書館とは

すすめられて『コンチキ号漂流記』を読んだことがある。私は命が惜しいので、この先イカダで南太平洋を渡ることはないのだが、この本を読むことで海を渡り、わくわくしながら命がけの冒険をした。楽しかった。と同時に、子どもの頃に読みたかったなとも悔やんでしまう。子どもの頃に想像力が培われていたなら、きつと今頃、豊かな大人になれていたはず。本を読むことで別世界を生き、それをも経験として現実を生きていたなら、と。心はぐくまれて人は育つ。ああ楽しかったと思って活力にする。

四日市市において、新しい図書館をつくらうとする計画「中心市街地拠点施設整備基本計画」の策定が進められている今。

図書館とは、新しい図書館とは、とよく考える。図書館とは、日々を楽しむ、人の心をはぐくむものとなる、最も大切な居場所だと信じている。(レポート 伊藤美香)

(参考) 四日市の礎Ⅱ 60人のドラマとその横顔
志水雅明監修

平成28年度四日市市立図書館概要

パッションひろば

「パッションひろば」では、文化協会の活動報告を中心に、協会主催催事のレポートなどをご紹介します。

文芸ひろば
第十五回四日市短詩型文学祭受賞者一覧
平成 28 年度 四日市市文化功労者・四日市市民文化奨励賞
総合美術展を終えて
四日市市文化協会後援イベントのご案内
お詫びと訂正

文芸ひろば

現代詩

美術館

館 奈見子

狭い廊下で人と人とはうまくすれ違ったけれど、それぞれの影はぶつかって、小さな音をたてた。それには誰も気が付かなかった。当の影たちでさえ何もなかったような顔つきで、数秒遅れて行き違う。ただ、壁にかかった絵の中の皿にのった葡萄の粒だけが一瞬艶めいた。わたしは案内板のやじるし通りに建物を回っていき、途中にあった中庭に出て、咲いていた花の、薄い花びらを触ったりした。「あたりさわりのない愛」という題のついた絵を見た。出口までくると、ちゃんと影を連れてきたか後ろを振り返る。きょうわたしは紫の靴を履いている。外は重たい雲から、今にも降り出しそうで、じっと目をこらす。雨のいちばん最初のひと粒をみつけようとして。

私たちは、たくさんのことばに囲まれて生活しています。物や事柄を示すときにもちろん、自分の気持ちを表したり説明したりする時にもことばを使います。ことばは私たちが生活する上でなくてはならないものです。

けれどときどき、使っていることばの背後から何かこぼれていくものがあると感ずることはありませんか。自分が使っていることばが、あいまいでほんとうのこととは少しズレていると感ずることです。

詩を書くとは、ひとつにはこの微妙なちがいに気づき、同じことばによって、真実に近づこうとする試みだと思っています。

この詩の中で、館さんはことばの持つ固定したイメージにとらわれず、自身のことばや表現をていねいに探し、追いかけて、ことばに新しいいのちを与えることで詩的世界を創り上げることに成功しています。

ここにはもうどんなあいまいなことばもなく、本物の美術館以上に作者が発見した(そして私たちがまた発見させられるのですが)「美術館」がたしかに存在します。不確かなものを、確かなものにもできることばと、そのことばが織りなすイメージが生み出した美しい詩です

(解説 黒田加恵)

平成28年11月3日

第十五回 四日市短詩型文学祭受賞者一覧

小中学校の部

優秀賞

菽谷 小遥 生川 怜奈 小坂 勝井 涼平 細川 敬輝
 詩音 細川 敬輝 伊藤 憧香 宮本はいね 森下 依吹
 都築佑里菜 内田 昊志 広中 杏奈 伊藤 良真
 江川 幸輝 勝本キラリ 寺尾 奈夏 森 春香
 福田 玲空 細川 奨真 堺 奈都美
 寺本浩史郎 東山 優姫
 小野田絢水 伊藤 愛菜
 田垣 玲美 藤井 孝成
 高原 弦 細川 奨真

奨励賞

勝井 涼平 細川 敬輝
 宮本はいね 森下 依吹
 広中 杏奈 伊藤 良真
 寺尾 奈夏 森 春香
 細川 奨真 堺 奈都美
 寺本浩史郎 東山 優姫
 小野田絢水 伊藤 愛菜

一般の部

四日市市長賞

藤田さ津ゑ 後藤 雪子
 大嶋都嗣子 北川 英昭

四日市市議会議長賞

田中 笹子 堀越 毅
 相馬まゆみ 小川はつこ
 西尾 泰一

四日市市教育委員会賞

川村かほる 長谷川 宏
 藤川 美和 やまざり萌
 中村伊都夫

四日市市文化協会賞

中山 秀子 伊藤かおり
 樋口 仁 岩谷 隆司
 西山嘉代子

四日市市文化まちづくり財団賞

口野 光康 松本 愛子
 田辺 逸子 湯浅 重好

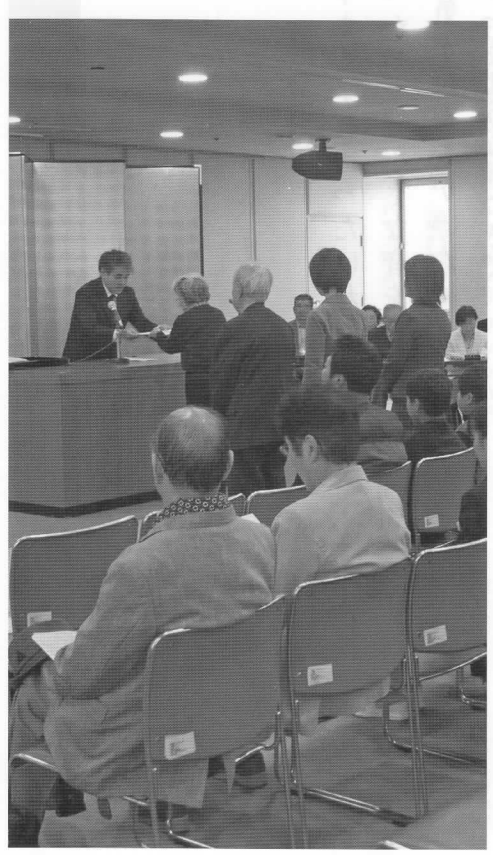
CTY賞

一木 鈴子 吉田きみ子
 森 繁生 杉野 朝音

佳作

安里 檀 浜西 修
 梶 泰榮 藤澤 徳人
 後藤 秋千 形岡 トミ
 坂倉 正康 赤星 陽子
 丹羽千津子 加藤 正子
 高尾田鶴子 松井 湖青
 川口 敏子 加藤 清重
 樋田 由美 海野さちこ

(文芸担当 西田青沙)



平成28年度

四日市市文化功労者 四日市市民文化奨励賞

平成28年度四日市市文化功労者・四日市市民文化奨励賞の被表彰者が左記のとおり決定しました。

(1) 四日市市文化功労者

〔文化財保護分野〕

立阪神社獅子保存会

(たつさかじんじやししほぞんかい)

- 年数 50年(昭和41年10月設立)
- 所在 四日市市垂坂町
- 表彰に該当すると認める事項
垂坂町の伝統芸能として170年以上もの長きにわたり受け継がれてきた獅子舞について、昭和41



年の保存会設立から50年にわたり保存・継承してこられました。会の後継者を積極的に育成し、地域を挙げて町の誇りに育て上げた活動は、他の伝統芸能等を保存・継承する団体のモデルとなるものです。

平成10年には市指定無形民俗文化財に指定され、伊勢神宮での奉納獅子舞や大四日市まつりをはじめとする地域行事での演舞など、地域文化の発信を積極的に行っております。



(2) 四日市市民文化奨励賞

〔音楽(声楽)分野〕

高倉 宏恵

(たかくら ひろえ)

- 年齢 38歳(昭和53年9月1日生)
- 住所 四日市市野田二丁目
- 表彰に該当すると認める事項
平成23年度の第12回大阪国際音楽コンクール入選をはじめ、さまざまなかんくろくで入賞や入選を果たしておられます。
オペラ歌手として、市内を含め、全国各地でのコンサート出演や福祉施設への訪問演奏など、幅広い活動をされておられ、今後、ますます本市の音楽文化の振興に寄与していただくことが期待されます。

平成28年11月18日～20日

総合美術展を 終えて



今年度も第66回市民芸術文化祭の一環として11月18日～20日までの3日間総合美術展を開催させていただきました。出展ジャンル11で出展数は会員188点＋公募14点、計202点と多くの方の出展ご協力で開催の運びとなりました。

ご来場者数は他の市民芸術文化祭と重なったこともありましたが、約600名の方にご来場



平成27年度賛助会員 (順不同・敬称略)

法人会員

- (株)シー・ティー・ワイ
- (株)第一楽器
- (学法)富田文化学園
- 茶道具 山水園
- (一社)セントラル愛知交響楽団

- 日本トランスシティ (株)
- 水九印刷 (株)
- 四日市都ホテル
- (株)レイ・ステージ桑名
- オリンピックスポーツクラブ

個人会員

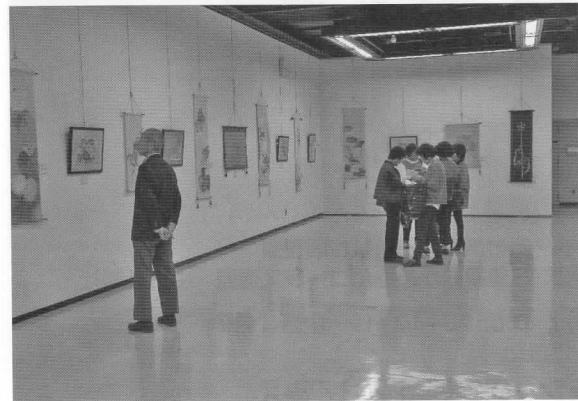
- 一見 政幸 豊田 政典
- 田中 俊行 中川 正春
- 津田 健児 永田 正巳
- 若菜 淳二

ご支援ありがとうございました



いただき有難うございました。
 展示会場は2階室に書道・銅板工芸・写真・手書き染・尾張絵など1階では押し花・書道・水墨画・伊勢型紙など幅広いジャンルの作品が一堂に整然と展示され、来場者の皆様がゆったりとご覧いただける様配慮し、また休息スペースも確保し、見ごたえのある作品展示となりました。

どの作品を見てもこの総合美術展に向けての作品作りの「構想に、製作作業に」幾度となくやり直し、多くの時間を費やし作り上げた傑作ばかりで熱い情熱が伝わってくる素晴らしい作品ばかりでした。
 ご来場者さまからは知人の作品を発見され驚嘆されたり、会員からは異ジャンルの作品に製作工程やら苦勞談を質問された



り、作成要領の解説を聞いたり嬉しそうに応答している作者も見られました。
 ご来場者の中には同年配の方々の作品出展に感動され、自分も出来るものがないかと模索されている方もお見えになりました、また毎年お見えになっていく方からは「今年の作品は素晴らしいですね」とお褒めの言葉をいただいたり、「陶芸は無いの、彫塑がないね」とか厳しいご意見もいただけたり、市民の皆様も定着した行事になっていることを実感しました。

今後の総合美術展として、よ



り幅の広いジャンルで市民の皆様方に参加いただけるための工夫と、より多くの方にご来場いただけるための工夫が必要かと思っております。
 2017年は11月24日〜26日と確定しております。会員の皆様は、いまからご準備いただき素晴らしい総合美術展にしようではありませんか。

(銅板工芸の会 太田 進)

一般社団法人四日市市文化協会 後援事業

本号発行から次号までの間の催事をご案内します。催事については各問い合わせ先におたずね下さい。

第53回 三省会書作品展

日時 3月24日(金)～26日(日)
会場 四日市市文化会館 第1展示室
主催 三省会 入場料 無料
後援 四日市市 中日新聞四日市支局 (株)CTY エフエムよっかいち(株)
問い合わせ ☎ 090-1825-1595 花井 高峰

ささ菊会 民踊と舞踊

日時 4月2日(日) 会場 四日市市文化会館 第1ホール
主催 ささ菊会 入場料 無料
後援 四日市市 四日市市教育委員会
問い合わせ ☎ 090-7606-5882 金森 通子

四日市交響楽団 第39回定期演奏会

日時 4月16日(日) 会場 四日市市文化会館 第1ホール
主催 四日市交響楽団
入場料 前売 一般1,000円 中・高校生500円
当日 一般1,200円 中・高校生700円
後援 四日市市 四日市市教育委員会 中日新聞社 (公財)四日市市文化まちづくり財団
問い合わせ ☎ 059-355-7925 水谷 達

第3回 音楽でつながる青少年“夢の祭典”

日時 5月3日(水) 会場 四日市市文化会館
主催 四日市ライオンズクラブ 入場料 無料(要整理券)
後援 四日市市 四日市市教育委員会 四日市市立小中学校長会
四日市商工会議所 (株)CTY エフエムよっかいち(株)
問い合わせ ☎ 059-353-2345 石田 成生

第10回 マジックお楽しみ会

日時 5月7日(日) 13時30分～
会場 四日市市文化会館 第2ホール
主催 三重奇術愛好会 入場料 無料
問い合わせ ☎ 059-326-3587 川田 勝

大河流寛紫会発表会

日時 5月21日(日)
会場 四日市市文化会館 第2ホール
主催 寛紫会 入場料 無料
後援 四日市市 四日市市教育委員会
問い合わせ ☎ 090-9944-3811 (大河 寛紫)

第38回 四日市吹奏楽団定期演奏会

日時 5月28日(日)
会場 四日市市文化会館 第2ホール
主催 四日市吹奏楽団
入場料 前売 一般1,000円 学生500円
当日 一般1,300円 学生700円
小学生以下無料

後援 四日市市 三重県吹奏楽連盟 朝日新聞社
中日新聞社 (株)CTY
問い合わせ ☎ 059-386-4196 鎌田 祐里

第25回 能楽をたのしむ会

日時 6月4日(日) 10時～16時
会場 四日市市中央緑地公園 南入口
四日市市勤労者・市民交流センター本館ホール
主催 四日市市能楽連盟 入場料 無料
問い合わせ ☎ 090-1561-4891 山家 多喜男
内容 この地方に関連のある曲目を選んで演奏し、その
遺跡・旧跡などを、写真や地図で紹介いたします。

女声合唱団「京」30周年記念演奏会

日時 6月11日(日)
会場 四日市市文化会館 第1ホール
主催 女声合唱団「京」
入場料 前売・当日共 大人1,000円
後援 四日市市 三重県合唱連盟
三重県おかあさんコーラス連盟 中日新聞社
問い合わせ ☎ 059-394-4119 中西 信子

クラシック音楽祭2017 みえ

日時 9月24日(日) 会場 四日市市文化会館
主催 四日市クラシックファンクラブ 三重県ほか
入場料 前売 大人2,500円 高校生以下1,000円
当日 大人2,800円 高校生以下1,300円
後援 四日市市 (公財)四日市市文化まちづくり財団ほか
問い合わせ ☎ 080-4222-3566 西村 邦彦

9月15日以降の四日市市文化協会後援事業の予定がありましたら、この誌面にて告知を掲載しますので事務局までご連絡ください。

お詫びと訂正

平成28年9月15日発行のパッション第59号において、特集記事6頁と7頁の「追分鳥居の水」の記事に記述などに誤りがありました。この印刷物はその記事の訂正縮小版です。

この他に17頁の役員名簿で監査の蒔田勝義様の記載漏れ、19頁の後援事業の10月10日開催の民踊・舞踊の後援先に三重県吹奏楽連盟様と朝日新聞社様が誤って記載されておりました。

平成29年3月15日
一般社団法人四日市市文化協会
パッション編集部

パッション編集部

ひとこと



追分鳥居の水

こんなまちで水を汲んでいる人たちは少々いた。
「この水は飲めるのですか」
「もちろん飲めますよ、飲んでみませんか、四日市の名水や」
飲も死んでいたいのか、我が家のウォーターサーバーのまわりしりしり。
今日もこの道には数百台の車が通っている。あまり広くない日本道分岐の三叉路。ここでは、水タンク、ペダルボルト、タンポールなど、車いすに載せて帰っていく。
この、日本の道分岐は伊勢街道と伊勢街道の分岐点。現在は四日市市道分岐である。
安永三年（一七四四）に伊勢宮の遷葬鳥居が設置された。
そのあと嘉永二年（一八四九）追分道標が建てられた。東海道参名から伊勢に向って、「石京大坂道」「左せき参道」「すくじ戸道」となっている。この道標は、桑名魚町の屋敷屋敷助が建てたもの。またこの先にある常夜燈なども、やはり寄附されて建立したものが



追分鳥居水源地

ばれ、桶にみる水なのである。今地元の人たちはもちろんのこと、遠方からも、汲みに来る人が多い。二年に一回の水質検査を行う。周囲の緑地や、その他お話を自治会の人達が担当して実施している。
水源地は、二〇〇メートル程西の丘陵地に大きなウツロが建っているが、その麓に湧き出ている。そこは、郷土の名水、桶川川沿いの別荘があったところである。



深井戸の石碑

平和産業から、軍産業になるまでその功績は大きく、開大建設には積極的に奔走して東京府民を感動させた。
その後、郡士及び村長を兼ねた。
そのとき、おおよそこの池に「深井戸」を掘り、不連続帯（水を通さない地層）を掘りぬいて、やっこの下にある帯水層（地下水層）まで達した。そこには、長年の歳月を経て溜め込まれた、豊富な地下水が溜められていた。そこから湧き出たのが、後に追分鳥居の水と呼ばれて、開の人々を驚かせる名水であったのである。
当時治村にはまだ水道が引かれていなかった。そこで早速深井戸へ自費で竹の配管を敷設して、村人たちの自給を助けた。

追分道標
翁の事蹟は昭和二十一年（一九三二）二月、日本地区自治会が日本国史、日本小学校正門前に建立した道標碑に詳しいが、それによると、翁は明治十一年二月に生まれ、家は代々瓦葺造業であったが、二八歳のとき東京月島にて建築工場の創設、福地建築工場を興した。社運を伸ばし、巨万の財を成した。

翁の事蹟は昭和二十一年（一九三二）二月、日本地区自治会が日本国史、日本小学校正門前に建立した道標碑に詳しいが、それによると、翁は明治十一年二月に生まれ、家は代々瓦葺造業であったが、二八歳のとき東京月島にて建築工場の創設、福地建築工場を興した。社運を伸ばし、巨万の財を成した。

平成28年9月15日発行の「パッション」第59号において、特集記事6頁と7頁の「追分鳥居の水」の記事中、記述などに誤りが多々ありました。この印刷物はその記事の訂正版です。
読者の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。
平成28年11月10日
一般社団法人四日市市文化協会
パッション編集部

詳細は協会ホームページに掲載しております 四日市市文化協会 検索

四日市市文化協会様御用達 パネル用 “紙看板”
フルカラーインクジェット大判プリント
耐久クロス地、ターポリン地 取扱い
900x1800mm 6,000円~ (税別) ☎ (059)353-3885
株式会社 紺文旗店 http://www.konbun.com
E-Mail info@konbun.com
〒510-0075 四日市市安島2-4-14 TEL 059-353-3885 FAX059-353-2417

短信

杉原千畝・幸子夫妻
をご存知?

近年特に著名になってきている人物がいる。第二次世界大戦中、ナチス・ドイツに迫害された多くのユダヤ人に日本通過ビザを発給した元リトアニア領事代理の杉原千畝がその人である。

千畝を戦時中から支えつづけた生涯の伴侶、幸子さんは戦後、藤沢市を拠点に短歌活動に精励し、浅野英治氏と出逢った。浅野氏も戦後、妻子と離縁し、教職を捨てて歌道に専念するため四日市から上京。北原白秋門下となり、寺山修司らとも交流した浅野氏は晩年、郷里に帰り、知己となった私に度々、「仕事帰りに一寸寄っていかないか」と、電話をくれた。

歌道で一家を成した浅野氏は、人道主義に基づいて「命のビザ」を発給した千畝の妻、幸子さんを無名の私に紹介しようとしたが機会を失したまま先年の雪降る一月に逝去。その後、幸子さんも他界。

歌道に縁の薄い私は不運にも、杉原夫妻につながる近道を閉ざされ、千畝関係書を読みながら杉原夫妻、浅野氏を偲んでいる。(志水雅明)



四日市市三浜文化会館（カルチュラル三浜）が開館した。11月の開館記念時に、当方もリハーサル室や練習室を利用してみた。音が響きすぎる等の課題もあるものの、改装前が小学校であったことを忘れるぐらい落ち着きある色調の内装や、自動照明付きの快適なトイレ、ロッカーの多数配置、更衣室・シャワールームの整備など利用者目線で設計された魅力的な面も多い。四日市市にすてきな文化施設がひとつ増えた喜びがわいたものである。さて、文化協会は「市民芸術文化祭」として毎年

小さな文化活動を息長く

白井 良昭
一般社団法人四日市市文化協会 常務理事

20近い大きな催物を開催しているが、近頃、身近な場所にて少人数で行う文化事業の充実にも力を注ぐ時期に来ているのではと強く思う。「カルチュラル三浜」は少人数の活動場所としても最適だ。今後大いに活用したい。さらに、身の回りをよく見渡せば文化活動のできる場所は意外と見つけれらる。経費を多くかけずとも、またやってみたいと思えたらしめたものが大事。相田みつをさんの言葉をお借りすれば「いい加減が良（い）い加減」の精神だ。小さな文化活動を少人数で活動する喜びは、意外と新鮮で刺激的。個人として、また協会としてやれることを、わくわくしながらこれからどんどん試行していきたい。

理事長つばさき

西川 保歳

稀にみる雪の多さに驚くばかりの冬も早春を迎え、柔らかな日差しにホッとします。間もなく新役員になってから一年が経ちます。

6月開催の「能楽をたのしむ会」に始まり翌3月の「フボレーション」まで22事業舞台関係・展示関係・文学関係と夫々の分野で活動される会員の皆さんが今年も集大成を発表できたことと自負しています。前を向いて来年度はもっと充実した文化活動ができることのお手伝いができたらと役員一同5月の総会に向かって全速力で走り続けております。

「こんなことはできないだろうか?」「こうしてみたいのだけれど?」とお考えがあったら、是非事務局までその声をお届けください。文化協会に入っていてよかったと思える団体になれるように皆さんで育てて頂けたらと考えています。

編集後記

●今号の記事には、勉強になる、為になる記事が多かった。そして「育つ」育てる」という言葉が多かったのも、偶然かもしれないが面白いと思った。さらにEASIEの大久保雨咲さんや、パッションひろばの館奈見子さんのように、何気ない日常、風景を常とは異なる視点で見ると、その発想、感性には感心してしまつた。そういう発想がとてもしかない私は、本を読んで、別世界の体験をするしかない。また書店や図書館に行こう。新たな体験をするために。(宇)

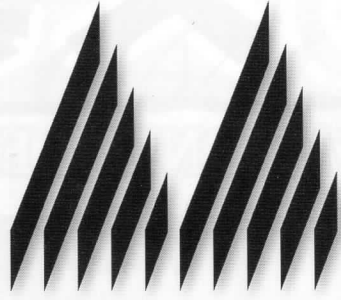
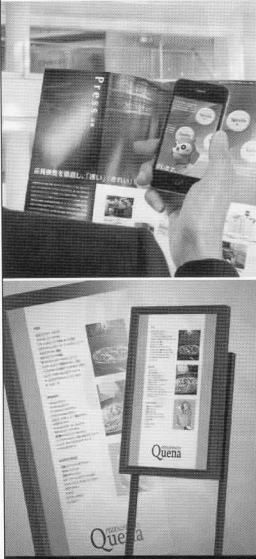
●昨年の11月に2名の女性編集委員と共に、病魔に冒され亡くなりました。お二人はパッションの意味の如く編集委員として亡くなる直前まで、情熱を注いでくださいました。その情熱のバトンを引き継いで、節目となる60号に相応しい方々に登場していただきまし。ご寄稿者様はじめ関係者の方々に深く感謝申し上げます。(森)

パッション 60号

- 発行 平成29年3月15日
- 発行人 西川 保歳
- 編集 パッション編集部
森 次男 (編集長)
石井 亨・伊藤 順子・伊藤 美香
中村 智恵子・久安 典之・吉川 秀道
西田 青沙 (オブザーバー)
- 発行所 一般社団法人四日市市文化協会
〒510-0057 四日市市昌栄町 21-10
TEL・FAX 059-351-3729
- デザイン・レイアウト 高田 敦
- 印刷所 水九印刷株式会社

水 九印刷は印刷事業を軸にデザイン企画、WEB制作、デジタルサイネージ(電子看板)、AR(拡張現実)、物流までお客様のあらゆるニーズにお応えしております。

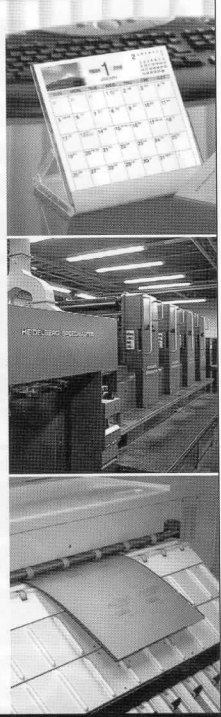
あなたの想いを
カタチに実現する



MIZUKU

地域と共に140年。

創業1875年(明治8年)を経て私達は常に革新し続けます。



水九印刷株式会社

〒510-0013 三重県四日市市富士町1-147
TEL.059-332-6600 FAX.059-332-6688
E-mail admin@mizuku.co.jp www.mizuku.co.jp



みやびの

お楽しみ膳

竹姫弁当: 1,620円 (本体価格1,500円)



しゃぶしゃぶと日本料理

四日市みやび

四日市シティホテル 2階

〒510-0086 四日市市諏訪栄町 7-28



ご予約承ります

Tel.059-351-3600

ランチ/11:00~15:00(オーダーストップ14:00)
ディナー/平日:17:00~22:00(オーダーストップ21:00)
日曜:ディナー休業

※写真はイメージです。※料理内容は季節により異なる場合がございます。
※価格はすべて消費税込みです。

近鉄四日市駅北口より徒歩2分

春の文具祭

SPRING STATIONERY FAIR 2017

文具・画材・額全品

メーカー希望小売価格より

3/24(金)・25(土)

9:00~22:00

26(日) 9:00~20:00

30%OFF~

一部除外品あります
(法令様式、特価品、高橋書店の手帳など)

●お買上げ1,000円以下の場合、クレジットカードのご利用はご遠慮下さい。

午前10時から
午後5時まで

お楽しみイベント

※12:00~13:00はお昼休憩と
ないますのでご了承下さい

24日(金)限定


トンボ鉛筆
名入れ無料即売会
かきかたえんぴつ
かきかたえんぴつ
低学年用かきかたえんぴつ
メーカー希望価格600円~800円税 **420円~560円**



25日(土)限定

**畠山 正先生の
似顔絵コーナー** その場で描きます!

お1人様 **500円** (色紙込み)
親子連れ・カップルで
800円です!! (お2人様まで)
スマホ及びプリントは200円プラスです



26日(日)限定

お名入れ無料

PILOT EVOLT
赤・黒+シャープ 美しく輝くアルミボディ多機能ボールペン
メーカー希望価格1,000円~1,500円+税
700円~1,050円

万年筆 **kakuno** カクノ
初めての万年筆が愛着のあるペンになる
メーカー希望価格1,000円+税
700円



貸ホールご案内

A(26名程度)
B(16名程度)

*ご利用時間は午前10時~午後9時までの2時間以上
*ご利用料金は1時間につき¥640+税(2時間単位でお貸しします)
*電源使用の際は別途1時間¥100+税が掛かります

初めて個展・グループ展を
貸しホールにて、ご希望の方は
無料で3日間お貸しします。

詳しくはお電話又は係員までお問い合わせ下さい
TEL. 059-353-7370 FAX. 059-353-7365

25(土)・26(日)
10:00~17:00

Milkさんの
パン出張販売

鈴鹿で人気の
パン屋さん

売切れ次第
終了させていただきます

県下最大級文具売り場

シエツワ白場 文具館

四日市市安島2丁目4-9 TEL 059-355-8577 <http://cheztoi-bungukan.com/>



※お電話での商品の取り置きはできませんので予めご了承下さい。※数に限りがございますので、売り切れの際はご容赦下さい。※期間中のポイントカードのご使用はできません。